特集

子育てフォーラム
新しい地域の再生と子育て
～被災地でつなぐ輪～

新年度を迎え、全国各地のワーカーズコープの子育て現場でも大きく仕事が拡大している。ここ数年、子育て事業も飛躍的な伸張を遂げているが、同時に協同労働による子育て事業の仕事の質も大きく変化を遂げてきた。

複層化する社会の困難は、子どもを産みにくく育てにくい社会を創り出し、子どもや子育てに関わる格差をも生みだしてきた。ワーカーズコープの子育て現場でも、目の前の子どもたちを通し、家庭崩壊や親による虐待、育児放棄、いじめといった深刻な課題と対峙しながら、その背景にある親や家庭、社会の複層化する困難に目を向けて、地域に飛び込み、親や学校、行政とも連携を取り、子育ての社会化を図って取り組んできている。こうしたなか、現代の子育ての社会的課題は家庭や子育て現場のみで解決し得るものではなく、福祉サービスや住居などを含む経済的支援、親の就労・労働環境の整備、良質な教育の制度化など、基本的な保障を含む社会システム構造の再構築の必要と地域社会のコミットが不可欠であることは子育て事業に携わる大半の者が首肯する点であろう。

しかしその一方で、ともすると子育て事業は専門性に特化し、内にこもる傾向もある。そのためワーカーズコープでは、地域社会全体で子育てに取り組むことの重要性や組織内にこもらない幅広い視点

とネットワークの構築の重要性も含め、こうした事業に従事する者にとって不可欠な情報交換やスキルアップ、学習を目的に集会や研修の機会を度々設けている。

こうしたなか、昨年に引き続き今年もNPO法人ワーカーズコープと財団法人こども未来財団との共催で、2012年２月11日、12日の両日にわたり、大東文化大学にて延べ1,259名にも及ぶ参加者とともに、「新しい地域の再生と子育て支援」と題して「子育ての社会化」をさらに深め、子育て支援、地域のあり方について考える幅広い内容のフォーラムを開催した（協力：協同総研、労協連、社会連帯機構）。

初日は大田堯さんのスペシャルトークとともにドキュメンタリー映画「かすかな光へ」も上映し、落合恵子さん（作家・クレヨンハウス代表）が「子どもにどういう未来を手渡すのか？」と題して記念講演がなされ、原発問題を鋭く追及する場面もあった。

今号の發見誌ではこの子育てフォーラムから全国各地の実践事例や研究者の報告などを織り交ぜた内容を特集した。現場で日々格闘する多くの方々の参考となれば幸いである。